

## 令和5年度第2回久慈圏域医療連携会議及び久慈構想区域地域医療構想調整会議 議事録

日 時：令和5年12月14日(木)18:30～20:10

場 所：久慈地区合同庁舎6階大会議室

出席者：委員・専門委員21名中18名出席、3名欠席

オブザーバー4名中4名出席

病院関係者(管理・事務)2名出席

事務局9名(県庁医療政策室2名、岩手県医療局2名、久慈保健所6名)

※県庁医療政策室及び岩手県医療局はオンライン出席

### 1 開会(千田 久慈保健所次長)

### 2 挨拶(森谷 久慈保健所長)

本日は、お忙しいところ会議に参加いただき感謝申し上げます。

また、日頃から久慈地域における保健医療福祉行政の推進に御理解と御協力を賜わり、御礼申し上げます。

本日の会議については、第1回会議を9月7日に開催し、2回目の会議ということになります。

本日は協議事項4つ、報告事項1つとなっています。

1つ目として、次期保健医療計画の本編について、本庁医療政策室から説明がございます。2本目として、久慈地域編について、久慈保健所から報告いたします。

3つ目に、地域医療構想に係る具体的対応方針について、今までは病院だけでしたが、今年度から有床診療所について取りまとめましたので、これについて保健所から説明いたします。

4つ目が、公立病院経営強化プランについて、久慈病院分を県の医療局から、種市病院分を病院事務局から説明していただく予定です。

委員の皆様におかれましては、忌憚のない御議論をいただければと思うので、よろしく願いいたします。

### 3 議事

#### (1) 次期岩手県保健医療計画(R6-R11)について(本編)

○ 資料1により事務局(県庁医療政策室)から説明

○ 中屋敷 亨 委員(久慈広域連合消防本部 消防長)

消防本部の中屋敷と申します。

14ページの精神科救急医療、周産期医療というのが、精神科救急医療については4圏域に分けられているということで、二次医療圏で言いますと、久慈地区とペアといいますかセットになっている地域はどこなのでしょう。

次の質問は、救急搬送で、やはり精神科の患者さん、搬送するのが非常に、困難な場合が多いので、ちょっと搬送先がどこの医療機関になっているのか、お伺いできればと。

○ 事務局（医療政策室）

医療政策室の佐藤です。

精神科救急医療圏の具体のグループ分け、圏域について、久慈地域はヨコの二戸と一緒にしております。主に中心となる病院は県立一戸病院で、精神病床を持っている病院になりますので、もし仮に精神科救急が必要であれば県立一戸病院での対応となります。

ただ、やはり県立一戸病院での対応がなかなか難しいものについては、岩手医大へ搬送というものも一部あると精神の担当の方から聞いているところです。

以上です。

○ 中屋敷亨 委員（久慈広域連合消防本部 消防長）

ありがとうございます。

周産期産科領域の患者さんについても二戸病院へという場合も多いのですが、先ほど1時間以内に到達できるように二次圏域の考え方というお話もありましたが、三陸沿岸道路につきましてはかなり整備が進んで、先ほどの資料1の8ページのように、すごく前進しているなという感じはあるのですが、久慈地域との二戸地域のアクセスが非常にあまり良くないと思います。

医療局といいますかそちらの県の方で、土木部門というか道路の整備の関係の方には要望されているのでしょうか。

○ 事務局（医療政策室）

はい、ありがとうございます。県としても土木の方にはそういったお願いというか、県土整備部の方になります。そういった道路の計画というの、内部では、いろいろ検討できないかという形で進められているように聞いております。ただ、道路整備はかなり大きな事業ですので、費用対効果等を踏まえて、県土整備部の方で今後検討されていくものと思います。ただ、市町村から道路整備の要望を受けている点については、県土整備部も医療政策室も、把握はしておりますので、保健医療サイドから、そういった部分については県土整備部の方にしっかり伝えていきたいと思います。

よろしく申し上げます。

○ 中屋敷亨 委員（久慈広域連合消防本部 消防長）

はい。よろしく申し上げます。

もう一つだけ資料1の17ページのICT活用ということで、久慈病院さんとか、八戸赤十字病院さんとかと連携させていただいて、非常にうまくいっているなというふうに感じているのですが。

実際に転院搬送する救急車の数が限られておるものですから、やはりすべての時間を転院搬送に充てるというのは非常に大変な部分もあります。

県として例えば病院の救急車をどのような活用をするとかですね、消防は市町村、市町村の範囲ですので市町村の方でもいっぱい協力はしますけども、県としても搬送のデバイスを何か考慮するとかって動きはあるのでしょうか。

○ 事務局（医療政策室）

はい。現状病院で持っている救急車もそうですが、今回、疾病・事業別医療圏を設定しますので、やはり消防との話し合いというのはしっかりとしていかなければいけないと思います。同じようなお話が釜石圏域と気仙圏域の中でも、いわゆる転院搬送で搬送距離・時間が短くなったとはいえ、転院で例えば県立釜石病院から県立大船渡病院へ送ってくれということで、救急車が取られてしまっているというお話は消防から受けていましたので、今すぐ対応策を持ち合わせているわけではないのですが、ただ今回の設定にあたって、引き続き消防や各病院とその辺の話し合いは、引き続き行っていきたいと思っております。

以上です。

(2) 次期岩手県保健医療計画（R6-R11）について（久慈地域編）

○ 資料2-1及び2-2により事務局（久慈保健所）から説明

○ 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）

医療従事者の不足について、この久慈構想区域地域医療構想調整会議としては何か活動目標はありますか。

○ 森谷俊樹 委員（議長・久慈保健所長）

地域医療構想会議というよりは、医療連携会議としてですかね。

○ 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）

どちらでも。

○ 森谷俊樹 委員（議長・久慈保健所長）

圏域としては、医療従事者の確保、県立久慈病院の方でも、オーダーをだしてしていると思いますので、医療従事者確保、もちろん医師以外もですね。

○ 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）

次の医療計画の中で、医師不足解消に向けて何をするとか、具体的な予定はありますか。

○ 事務局（久慈保健所）

保健所といたしましては、6ページの丸の一つ目のところに記載しておりますとおり、これまでも実施しておりますけれども、中学生を対象とした、医師を講師とする学校での出前講座ですとか、県立久慈病院にご協力をいただきまして、医療現場体験など、こういった取組をまず地道にしていきたいと考えております。

また、二つ目の丸でございますけれども、県や市町村で行われております奨学金の制度についても、周知を図って参りたいということでございます。

- 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）  
臨床研修医に働きかけてもらえると有効と考える。口コミで街が歓迎しているということが分かれば、研修医の募集に有利だと思う。例えば、研修医に支援をしたり、懇親会を開催したりなど来てくれてありがとうという表明をしてほしい。資料2-2の（医療従事者の養成）○の3つ目にある「臨床研修医」に対する対応が有益と考える。さらには研修医のみならず、若手医師へも同様の対応をすることで医師増加に繋がる可能性があるか。
  
- 森谷俊樹 委員（議長・久慈保健所長）  
感謝。そういうことですね。  
実際、臨床研修医の先生にも、地域に出て行って、高校生とかにも話をしてもらったりしていますので、そこら辺、何かできないかですね。
  
- 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）  
それは、研修医は依頼され地域に出て講演会などで住民の皆さんに触れる機会はあるが、それとは別によく来てくれましたという、イベント的な歓迎があれば、久慈勤務のモチベーションに有効と考える。
  
- 森谷俊樹 委員（議長・久慈保健所長）  
その辺は地域全体で歓迎というか、そういうことですね。
  
- 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）  
地域全体より、まず、地域代表で、保健所さんでできないか。
  
- 森谷俊樹 委員（議長・久慈保健所長）  
保健所だけということであれば、はい。
  
- 遠野千尋 委員（県立久慈病院 院長）  
地域全体にすると段取りが多くなり、実現まで時間がかかりそう。
  
- 森谷俊樹 委員（議長・久慈保健所長）  
わかりました。他に何か。
  
- 白戸隆洋 専門委員（しろと内科循環器科クリニック 白戸 院長）  
はい。今、遠野先生が言ってくれたことに、続けていいですか。  
うちらクリニック・診療所の医師が9圏域中9位です。  
小児科の先生とか外科の先生もなんかも内科を見てくださいって本当にありがたいのですが、特に、高齢者を見ている久慈市内の内科医が6件、そのうち、2件の先生がちょっと体調を崩されて、今4件で、頑張っているのですが、本当にきついです。

さっき研修医の話や、奨学金を返した後の県内定着とかの話がありましたけど。

盛岡がどうでもいいって話じゃないのですけど。ドクターがいっぱいいるところは別として、本当に足りなくて、何かこの在宅でやりましょうとかいろいろ言っていて、私たち、クリニックの医師が、余裕がないと全然できないことで、やりましょうやりましょうって言っても、もうやる力がないです。

先週も訪問看護ステーションの人から、先生何とか訪問の方にも目を向けてアドバイスくださいと言われて、全然時間がないです。

今は、診療縮小した先生のところの患者さんを受け入れるので精一杯で、あとその中で感染症も来て、患者さんからは、どれだけ待たせるんだって毎日怒られ、そんなふうな感じで何とかやっています。

ですから本当に、この、医師が少ない地域も減っちゃっている地域も本当に医者だけじゃなくて、本当に多職種で頑張らないと思っているのですけど、本当に力がないので。

やはり、若い先生に残ってくれるように、遠野先生が言ってくれたことがすごく大事で、声かけを県としても、あと市の方で、本当に種市とか葛巻とかは、たくさん奨学金出して、子供たちが帰ってきていますよね。葛巻病院や種市病院で働いてくれる。

やはり、これから久慈市の医療が本当に大変なのです。

僕も明日は我が身だと思います。疲れて辞めたいなと思うのは。本当に今働いている先生がみんなそうなので。

この12月っていうのはちょうど、最近のことがあったのが今なので、むちゃくちゃ辛いです。この後検診結果を持った人が、わんさか訪れます。

皆さんご存知のとおり、産業医のこともできていない。研修も皆さん、久慈で受けられてないです。八戸に行ったりしている。

やはり本当に医師の数がいないとどうしようもできないので、その辺、お願いします。

久慈の魅力を発信して、若い先生が来てくれないと本当に立ち行かなくなるって思っています。

○ 齊藤 裕 専門委員（齊藤内科 院長）

時間も時間ですが、すみません。

私が久慈に帰ってきて28年経つのですよ。

この10年振り返ってみると、この5年間で久慈のすごい変革の時期だと思います。昭和の久慈の医療を引っ張ってくれた、75歳以上の先生、2人が閉院しました。2人の先生が亡くなったのですね。それだけじゃなくて、昭和から平成、医師会長もやられたベテランの先生方2名が体調を崩している。

閉院のようになれば、患者さんが溢れますよね。そうすると特にも内科の先生が見ないといけない。小児科の先生も影響があるかもしれない。

また、来年の3月に皮膚科の先生が閉院します。計算すると、ここ5年で7人の、昭和から平成を担ってきた先生方が、久慈から離れるわけですね。ここまで10年間で、新しい先生は1人もいなかったのです。

今年やっとですね、11年目ですね。新規開業、内科と整形外科です。待ちになった若い先生の開業です。その先生が開業する前、去年までは白戸先生が一番若いのですけど。50を過ぎています。56歳です。一番若手ですよ。現状をわかってほしい。

私は、ここ 15 年ぐらいは久慈病院の疲弊をなくそうと思っております。

それで、遠野先生が一番分かっているとありますが、来年からの働き方改革、これが怖いのです。私は、昭和から平成は、地獄の県立病院の生活をした。とにかくフルスロットルで県立病院に勤めていました。

遠野先生の話を知ると、来年からの県立病院は、私のような末端の、かかりつけ医・診療所の医師からすればもう地獄ですよ。もうただでさえ、コロナ、インフルエンザ、それから閉院する先生の患者さんの引き取り。疲弊の毎日です。

それが現状なのですけども。市の方がもうちょっとやっばわかって欲しいのですよね。県の方々は何もしてくれないのですよ。市長さんに言ってください。

○ 三浦一之 専門委員（県立久慈病院 副院長）

県立病院の三浦です。

平成 10 年からこちらにいますので、状況は結構見ているつもりですが今回、ディスカッションさせていただいて独居高齢者の話を入れていただいて、27%増えております。結構な数が増えていようようです。

消防の方はよくご存知ですけど、独居は困るのですよね。情報は全く取れません。本人が倒れてしまいますと、病院に連れてこられてもなにかわからない。本人は返事できない。

そういう地域で、医療は今後減っていくんですね、きっと。

ただでさえ県平均の半分ぐらいしかいないところで、高齢者増え、需要は増える、独居は増える。つまり、要望は上がる・受ける側の医者は減る、というところを強調した計画にさせていただく。そこをどうするんだということを示してもらわないとダメですよ。

こういうことを皆さん共有したいと思います僕は。計画で書かれていないと、次にどうするか、大丈夫ですかと。

受ける側は、頑張りますけど。だんだん減っていきます、私もあとちょっとで定年です。その後は分かりません。減っていくのですよ。

遠野が先生言うような、何とかして引っ張り込む策は、時間かかります。即効性がないです。

介護と医療連携、わかりますけど。医療のほう引っ張られても、対応能力あんまり無いです。無いって言っちゃったほうがいい。

なので、介護と医療の連携書かれても、絵に描いた餅です。

これを、県レベルと同じように格好よく書いても、何の役にも立たない。そこを皆さんと共有したい。

これを保健所がちゃんと理解して、先導とってくれないと、周りが困ります。計画に書いてあるからやれと言われても。

そこをちょっと、共有したいと思います。

○ 事務局（久慈保健所）

ご意見ありがとうございました。

最終案に向けて、本日いただいたご意見を踏まえて、修正案等を考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

### (3) 地域医療構想に係る具体的対応方針 補足等

- 資料3により事務局（久慈保健所）から説明

- 久慈恵愛病院 若狭 事務長

久慈恵愛病院の若狭でございます。

皆様方には日頃より大変お世話になっております。

今事務局より説明がありましたとおり、久慈恵愛病院では、令和7年度の見込みで19床減の23床とすると回答しております。

これは慢性期の療養病床の一部として稼働しておりました介護療養病床が、法令により、設置期限の経過措置が今年度末で、終了いたします。

そのことから同様の機能を持った介護医療院に転換を予定しているためです。

今年度中の転換予定となっております。

転換後につきましても、医療の必要な要介護者の方の受け皿となれるよう慢性期病床の減少が、地域医療に影響がないように、対応して参りたいと思っております。

ご了承いただければと思っております。

よろしく申し上げます。

### (4) 公立病院経営強化プランの検討について

- 資料4により事務局（岩手県医療局）から説明

- 資料5により洋野町国民健康保険種市病院（管理係長 坂下 弘樹）から説明

- 質疑等無し。

## 4 報告

### 次期岩手県保健医療計画に係る在宅医療圏の設定に係る事項について

- 資料6-1及び6-2により事務局（久慈保健所）から報告

- 質疑等無し

## 5 その他

- 千田修 委員（一般社団法人久慈医師会 会長）

お時間が無い中、申し訳ありません。医師会の千田です。

私の力不足もなのかもしれませんが、他の先生がおっしゃったとおり、久慈地区は非常にお医者さんが激減しています。

いまから3点。

1点目、在宅医療に関してですね、確かに医師会として頑張って、選定しましたが、国の目標値に到達するのは非常に困難だと思われま

例えば24時間頑張ってもやればですね、絶対どこか疲弊します。  
ですから在宅医療に関して、皆様の過大な期待には、現時点ではなかなかお応えできないのだろうと思います。

2点目。

私医師会長ですけど小児医療でやっていますが、少子化で子供の数を増やすという話が世の中にあるわけですが、少小児科医から始まるので、そんなことしている中で、ひょっとしたら、もう間もなく小児科医も大激減をするのではないかと危惧します。

そうすると小児科医がいないところでは、子供の熱が出た時はどうぞ、二戸とか八戸に行ってください。健診もそっちで行ってくださいと。

そうなったときに、果たして子供が居つくのでしょうか。現実問題1時間かけていくわけですよ。

ですから実はそっちの方も大変なことになっております。

3点目、最後です。

ICTとかですね、オンライン診療とかっていうのが非常に進展していますが、果たしてそんなに、魔法のようなことでしょうか。

誰が見るのでしようかということですね。

いや、別に久慈地区の医者が見なくても、他の地区のドクター、専門医が見ればいいじゃないかと。けど、もし今日ですね、現時点における技術では、別にテレビディスプレイから医者の手が出てさわるわけでもなければ、聴診器を当てて喉を見るわけではないわけですね。

例えば、そんなことを1万件、10万件ぐらいやっているうちに、誰か亡くなったら、例えば、子供も含めて、大問題になると思います。

ですから、ICT、オンライン診療に関しては限界があるのだと思ってください。

例えば東京の医者なんかと同じ資料見て、オンライン診療の費用が発生します。費用を支払いますがこれは治療できませんから地元の医療機関へ行ってください。でも地元医療機関がないということが起きるかもしれない。

あとはですね、感染症も随分流行っていますけど。

「さわらない・みない・話だけ」というと、多分子供が何人か死ぬのじゃないかと思いませんか。あつたかもしれませんしなかったかもしれません。

日本全国同じ様な状況かもしれませんけど、久慈地区は私の子供に比べれば、開業医の数は本当にいないので。

もっとこのまま開業医が減れば、今度久慈病院が人気なくなるかもしれません。というか久慈地区が医者に人気が無くなれば、医者がどんどん減ります。

すみません。つい、言葉が走ってしまいましたが、そのような危機感を私はちょっと思っております。以上です。

## 6 閉会（千田 久慈保健所次長）